

2023 ECリーグについて（改訂版）

2023.5.12 総務委員会

※ 改訂した部分は赤字にしております

<ねらい>

- ◎現状の大会を維持しながら、勝敗にとらわれない試合を増やすことによって、選手が試合経験できる場を増やしていきたい。
- ◎チームの強弱に関係なく、多くのチームと交流を図る場としていきたい。

<リーグ分けについて>

- ◎リーグ戦のねらいを踏まえ、能力や勝敗などにかかわらないで分けることとし、年間を見通してできるだけ簡略化してブロック分けを決められるように配慮する。

↓

- ☆前期リーグ（4月～7月）は、春季リーグの抽選番号を利用して機械的に割り振りする。
- ☆後期リーグ（10月～2月）は、冬期間から雪解け時期にかかることから、移動の負担軽減を考えて地域別でブロック分けを行う。

※運営上の負担を軽減するため、男子も3ブロックから4ブロックに組み直して行う。

<リーグ戦の運営について>

- ① 通常と同じ試合形式を基本とする。ただし、選手の起用や対戦のしかたについては、リーグ戦のねらいに基づいて、ブロック内や対戦相手の指導者で話し合う。
- ② ブロックリーダーを中心に日程を連絡・調整し、期間内にすべての対戦を行う。
※ブロックリーダーは前期抽選時に決定して総務委員会に報告する。
- ③ 試合終了後は、ブロックリーダーに結果を報告し、ブロックリーダーが広報委員長（阿部）に結果をメールで報告する。集約したものを事務局へ。 ※スコアシートは回収しない
- ④ リーグ戦の結果はHPに掲載していく。（他地区への発信）
- ⑤ **感染症対策を踏まえた運営にあたっては、当面の間「JBA ガイドライン第6版」及び「HBA 第11号通知」に基づくこととする。**

<リーグ戦運営の考え方>

1 「日程が決まっている練習試合」とおさえる

- 試合の組み方や日程について部会から制限をかけることはありませんが、地区の大会や事業、学校行事、感染症の状況等に配慮して行うようにします。
- 基本的なルールや競技規則は通常通りですが、大会ではありませんので、ECリーグの趣旨（勝敗にこだわらず、選手の経験と交流を重視した試合）を踏まえ、ブロックや当該チーム同士で相談したり工夫したりして進める。

例) 選手交代を自由に認めて、選手の出場機会を増やす
下学年や控え選手同士で対戦するクォーターを設定する
ミニゲームの時間を増やす（U10の大会未実施を考慮して） など

2 基本的な感染症対策を継続し、安全に配慮して進める。

◎マスク緩和、5類引き下げに伴い、平時に戻りつつある状況ですが、ガイドラインに従い、感染リスクが高いバスケットボールの特性を踏まえ、基本的な感染症対策は継続して行います。

- ・選手、指導者、保護者の健康状態をしっかりと確認する。体調不良の場合は無理をしない。
- ・学校や周辺地域の感染状況も踏まえ、中止や延期の判断を視野に入れておく。
- ・基本的な感染症対策（手洗い、消毒、換気、咳エチケット、健康観察など）を継続して行う。
- ・参加する人数やチーム数、アップ場所、待機場所、試合時間、T.O、審判などは、**使える会場や施設の方針に従い、広さを十分考慮したうえで適切に設定する。**

※審判をする場合は、ホイッスルカバーを着用（または電子ホイッスルを使用）するなど、飛沫を飛ばさないように配慮する。

- ・個人チェックリストの提出は求めませんが、事前、事後の健康観察および参加者名簿の作成や提出は継続します。（HPに書式が掲載してあるので活用してください。）
- ・消毒衛生にかかわる備品（消毒液、ペーパータオル、ハンドソープなど）は、各チームで持ち寄って使用する。（部会の備品は配置できません）

3 学校施設に配慮した運営を心がける

◎ECリーグでは主に学校施設を利用することになります。開放事業で体育館を借りていても、状況によっては他チームが出入りして使用することに懸念を示す場合もあります。

5類に引き下げ以降も、必ず学校長の許可（理解）を得たうえで施設を使用するようにしてください。

- ・学校行事に配慮し、大きな行事の直前、直後に試合日程を組むことはできるだけ避ける。

例) 修学旅行、運動会、宿泊学習、学習発表会 など。